

令和5年産 主要農作物の生育状況

秋まき小麦	<p>播種期 (9/26) は平年より3日遅れた。根雪が遅く、気温も高く経過したため、越冬前の生育量は平年を上回り、冬損の発生は少なかった。起生期 (4/1) は平年より3日遅かったが、その後の高温と晴天により幼穂形成期 (4/26) で4日、出穂期 (6/3) で1日早くなった。登熟日数は平年より3日短かったが、幼穂形成から出穂に至る期間の日照が多かったことで穂長が長く、開花以降は適度に雨をもらいながら乳熟期 (6/25・早3日) に至った。成熟期 (7/17・早4日) の前後でまとまった降雨があり、倒伏が発生したが、収穫始 (7/20)、収穫期 (7/22)、収穫終 (7/25・早8日) と適期収穫が行われた。登熟期間の気温が非常に高く経過し、石礫が多い圃場では枯れ上がり及早まり減収の影響を受けたが、登熟期間合計の日照時間は247時間と平年より30時間ほど多く、粒の充実は良好で、製品収量・品質は平年を上回る結果となった。</p>
ばれいしょ	<p>植付期は食用で平年より4日早く (4/21)、加工用で2日遅かった (5/1)。萌芽の揃いは良好で、食用加工ともに平年並みに萌芽期となった。植え付け以降は気温が高く日照時間も長いうえに6月中下旬の降水量がほとんど無いことで開花期が食用・加工品種共に5日早く (6/20・6/26) になった。草丈は短く倒伏による下葉の消耗がほとんど無い健全な生育となったが、その後も気温が非常に高い状態で生育したため、茎葉黄変期は平年より8日早く (7/30・8/6) になった。9月に入り曇雨天の日も増加したため収穫作業に日数を要したものの、食用で4日早く (9/20)、加工用で1日早く (9/27) 収穫を終をむかえた。生育期間を通して高日照であったことと、塊茎肥大初期に極端な乾燥を避けられたことから上いも1個重はやや小さいものの、上いも数は平年より多かった。食用は収量はあるが、受け入れ後の腐敗等で歩留まりが劣り、加工用は品質・収量は良好だが中晩性品種のでんぷん価が低くなった。</p>
豆類	<p>豆類の播種期はほぼ平年並で出芽の揃いは良好で平年並みの出芽期をむかえた。生育初期から高温多照での生育となり、草丈や葉数の進展は非常に早かった。最終の草丈は小豆を除く豆類は平年並みだったが、地力の高い圃場では大豆の倒伏が発生した。小豆では開花期以降も草丈葉数の増加が著しく、最終の草丈は平年より3割近く大きく、過繁茂状態で倒伏や折損も見受けられた。各豆類の開花期はかつてなく早く、平年に比べ大豆で6日 (7/12)、小豆で8日 (7/17)、金時は8日 (7/7)、手亡で9日 (7/13) 早かった。登熟期間も高温の影響を強く受け、平年に比べ成熟期は大豆で5日 (9/19)、小豆・手亡で14日 (9/3・9/2)、金時は12日 (8/24) と大幅に早まった。いずれの豆類も莢数は平年に比べてやや少なく、開花期の長い小豆では、7月中旬～8月始めにかけて高温による受精障害が発生した。登熟日数は大豆は平年並みに確保されたが、他の豆類は4～6日短縮されたため、百粒重や整粒歩合が低下した。莢数が少ない状態で登熟日数が短くなったため葉落ちが悪い傾向で、特に地上部生育量が平年を上回った小豆はその影響が顕著で、莢が成熟しても茎葉の黄化が進行しない著しい「莢先熟」となり、収穫期が大幅に遅れた。9月には気温が高い状態のまま降水量が多くなったため、各豆類の適期収穫が困難になり、菜豆類は色流れや着色不良、腐敗粒が、小豆では濃赤粒や発芽・腐敗粒、2次生長未熟莢が、大豆ではしわ粒、シミ粒などの被害粒割合が増加して品質が低下した。マメシクイガ、アズキノメイガ、カメムシ類の虫害も多かった。豆類の収量は、大豆を除き平年を下回る予想。</p>
てん菜	<p>播種期 (3/10) は平年並で、移植期 (4/26) は平年より3日早かった。移植後は気温も高く強風害もなかったため活着と初期生育は良好だった。高温多照に経過したため、葉数の増加が早く、根部の肥大は非常に旺盛だった。しかし、8月上旬には気温が高い状態で降水量が増加したため、褐斑病の発生が各地で認められ、9月には全域に蔓延した。10月には褐斑病による枯死葉の再生に貯蔵養分が消費されたため、根部肥大が停滞し根中糖分は低下した。工場操業の関係で収穫始は10/7と平年より6日早くなった。生育後半の、ほ場過湿状態による生育停滞と褐斑病激発の影響で根中糖分が著しく低いため、糖量は平年を大きく下回る。</p>

ながいも	<p>植え付け作業(5/9)は平年と同様に始まり、5/26に平年より1日遅く植付終を迎えた。萌芽は、5月下旬の気温が高めに経過したことから、揃い良く順調に進み、平年より3日早い6/2に萌芽期を迎えた。</p> <p>茎葉の生育は、萌芽後の6月以降も総じて高温傾向で推移したことから、極めて旺盛であった。新しいもは8月上旬から順調に伸長した。本年は、高温少雨の時期が続く中において複数回まとまった降雨を観測したことで、生育停滞や土壌養分の流亡が抑えられた。いも長は平年を明確に上回る傾向を維持しつづけ、いも重は平年を上回った。品質面では、尻部の奇形、リング症状、胴割れの発生は一部にとどまり、形状の乱れは少なかった。</p> <p>一方、いも径は総じて平年並みで推移したが、乾物率は一貫して平年を大きく下回った。このため、本年産は、長さがあることに加えて、折れやすいことから、収穫作業に時間を要した。</p> <p>※JA帯広かわにし管内の作付品種が、令和2年度から「とちち太郎」に切り替わっており、平年比は参考とする。</p>
牧草 (チモシー)	<p>萌芽期は4/5(早5日)で、その後生育は順調に推移し、出穂始は6/4(早2日)となった。収穫作業は6月上旬から開始され、収穫始(進捗率5%到達)は6/11(早2日)、その後も作業は順調に進み収穫期は6/17(早3日)、収穫終も6/27(早5日)となり、1番草の収穫作業は平年に比べ短い期間で終了した。なお、4月下旬～5月末までは降水量が平年の3割程度と少なかったものの、10a当たり1番草収量は3,140kg(平年対比115.9%)となった。2番草は高温の影響を受け再生の遅れや生育の鈍化も見られ10a収量は1,380kg(平年対比96.2%)と平年を下回ったものの、年間合計収量では4,520kg(平年対比109.1%)と平年を上回る結果となった。なお、2番草の収穫は収穫始8/17(遅2日)がやや遅れたものの、収穫期8/23(早1日)、収穫終9/1(±0日)とも平年とほぼ同様の傾向で進捗した。</p>
サイレージ用 とうもろこし	<p>は種作業は天候にも恵まれ順調に進み、播種期は5/7(早1日)であった。生育期間(5月上旬～9月下旬)を通して、平均気温が平年を上回ったことから、生育は平年に比べ早く進展し、雄穂抽出期7/20、絹糸抽出期7/21とも平年より早7日となった。熟期においても糊熟期8/19(早13日)、黄熟期8/31(早14日)と平年に比べかなり早く熟期が進んだ。収穫作業は収穫始8/31(早8日)と平年に比べ早く始まったものの、9月前半のまとまった降雨などの影響もあり、収穫期9/18(早3日)、収穫終は10/6(早5日)となった。なお、とうもろこしの熟度が進んだこともあり、一部のほ場で刈り遅れる事例も散見された。生総重は10a当たり5,870kg(平年対比93.8%)と平年を下回ったものの、熟度が進んだことにより乾物率は本年29.6%(平年25.7%)と平年より3.9%高く、TDN%も高まったことからTDN収量は1,270kg(平年対比111.7%)となった。</p>

作況調査概要及び10a当たり収量

作物名		生育状況						10a当たり収量		
		調査基準日	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	本年(kg)	平年(kg)
秋まき小麦 (きたほなみ)		7/15	稈長 (cm)	81.4 (77.0)	穂数 (本/m ²)	781.5 (706.0)	穂長 (cm)	9.6 (8.8)	708	604
馬鈴しょ	食用 (メークイ)	8/1	莖長 (cm)	51.1 (72.7)	莖数 (本/株)	3.8 (3.9)	-	-	3,577	3,106
	加工用 (トコ)			50.7 (67.4)		2.9 (3.4)		-		
大豆		9/1	莖長 (cm)	70.0 (74.9)	葉数 (枚)	9.6 (10.0)	着莢数 (個/m ²)	569.7 (598.1)	355	302
小豆		9/1	莖長 (cm)	71.8 (57.3)	葉数 (枚)	11.5 (10.8)	着莢数 (個/m ²)	335.7 (359.9)	222	247
金時		8/15	莖長 (cm)	51.1 (53.9)	葉数 (枚)	5.0 (4.2)	着莢数 (個/m ²)	115.8 (130.0)	176	137
手亡		9/1	莖長 (cm)	52.0 (59.9)	葉数 (枚)	8.1 (8.2)	着莢数 (個/m ²)	134.0 (181.6)	173	192
てん菜		10/15	根周 (cm)	43.1 (41.6)	-	-	-	-	7,010 (12.9)	7,162 (16.6)
ながいも	川西地区	11/1	いも長 (cm)	84.8	いも重 (g)	1,621	いも径 (mm)	73.6	4,985	3,859
	大正地区			86.5		1,295		63.4		
牧草		1番草 6/15 2番草 8/15	1番草 草丈 (cm)	113.0 (105.8)	2番草 草丈 (cm)	98.8 (99.6)	-	-	4,520	4,144
サイレージ用 とうもろこし		8/15	稈長 (cm)	298.2 (289.3)	葉数 (枚)	17.9 (17.7)	-	-	5,870	6,225

注1) 生育状況：帯広市農業施策推進委員会調べ。下段()は平年値

注2) ながいもの平年値については、JA帯広かわにし管内の作付品種が「とかち太郎」に切り替わってから3年が経過していないため、記載していない。

注3) 10a当たり収量における平年値：帯広市調べ。てん菜下段()は糖分

注4) 10a当たり収量における本年値：帯広市推計値

注5) 10a当たり収量：秋まき小麦はきたほなみ、ゆめちからを、馬鈴薯は食用、加工用、澱粉用、種子用を含む。